

ORIENTEERING JAPAN

94 / 9

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

1994年〔平成6年〕9月10日発行

(毎月1回10日発行)

第11巻第9号通巻第134号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



49

1993

[本誌掲載のため約88%に縮小]

信州伊那高原 ますみヶ丘

長野県伊那市

全コントロール図 2日目 1994年8月7日(日)
第15回長野県オリエンテーリング2日間大会



ますみヶ丘

縮尺 1 : 15,000
等高線間隔 5m

原図 O-MAP ますみヶ丘 (1988)
伊那市全図 1 : 10,000 (1978)
作者 元木 恒の
調製 R.M.O.-サービス
印刷 株式会社 1988.10
作成 R.M.O.-サービス

調査日 1988年1-8月
調査者 元木 恒 利光良平 (R.M.O.-サービス)
大野健一 門田康 (信州大学OB)
藤川秀司 (工学OB)



「はじめての人のための
オリエンテーリング教室」
と名づけて、広島市で行わ
れた初心者教室から。

■今月の表紙：9月10日（土）、広島市で行われた「初心者教室」から。記事は12ページに。文／写真提供は広島OLC・三好 正夫氏。

■今月の地図：8月7日（日）、長野県伊那市で開催された、第15回長野県オリエンテーリング2日間大会の使用地図。大会の様子は7ページ、地方新聞（信濃毎日新聞）から、を参照。記事／地図提供は長野県OL協会：元木 悟氏。

コントロール位置説明表は



＝ IOF NEWS ＝

- ・第17回IOF総会、ブルガリアで開催
(IOF HEADLINES 2/1994 号) 訳：田口 肇 … 4

＝ 速報・94年度ユニバーシアード ＝

- ・鹿島田・怪我で欠場/
山本英・金田・金並 大健闘 報告：桐田 幸宏 … 5

＝ 投稿／地方新聞から ＝

- ・長野県上伊那郡長谷村で起きた
オリエンテーリング行方不明事件の真相
・「信濃毎日新聞」より
長野県オリエンテーリング協会 理事長 元木 悟 … 6-7

＝ SQUAD REPORT ＝

- ・JWOC（ジュニア世界選手権大会）閉幕
・大会成績 ・高校生選手紹介 桐田 幸宏 … 8-9

＝ 連載 ＝

- ・大会運営学「大会を開き、育てる法」
第3回 運営マニュアル 早大OC寿会 池ヶ谷 悦朗 … 10-11

＝ 投稿 ＝

- ・初心者教室を開催 広島OLC 三好 正夫 … 12

＝ 学連のページ ＝

- ・広告掲載のお願い
第17回インカレ実行委員長 松岡 秀明 … 12

＝ O-FORUM ＝

- ・「公認大会エリートクラス出場規定」への疑問
OLCサン・スーシ 和田 美千代 … 13
- ・地方新聞から「岩手町の車いすオリエンテーリング」
記事提供：柳村 正美 … 13

＝ 全国PC愛好会のページ ＝

- ・パーマネントコースりぼ〜と
木佐木 輝雄、大高 竜亮、富田 徹、吉田 勉
地図提供：三好 正夫（広島県OL協会） … 14-17

＝ オリエンティアのための本棚 ＝

- ・第12回：（社）日本の水をきれいにする会 編
「名水百選」ぎょうせい
文：村越 真／カット：早川 喜代美 … 18

＝ お知らせのページ ＝

- ・情報あれこれ（海外篇） ・PC情報 ・編集部より … 20

STREAMER

IOFニュースは先月号に乗せるつもりで、用意していたものをディスクのトラブルで消失。今月、再び訳してやっとIOF総会の結果を報告することができた。この欄で私なりのコメントをと、アンダーラインを引いたりしたが、スペースがない。いずれまた…

流人

第17回 I O F 総会, ブルガリアで開催

From "I O F HEADLINES" 2/1994
Translated by: Hajime Taguchi, O-JAPAN

第17回 I O F (国際オリエンテーリング連盟) 総会は、本年6月21日から26日にかけてブルガリアのバルナで開催された。

会議には3大陸、30 (新しく I O F に迎えた2か国=カザフスタンとマケドニアを含めて) の加盟国からの参加があった。なお、現在の加盟国数は、これで45となった。

会長には、スイスのハインツ・チュウディン氏の後を受けて、新しくイギリスのスー・ハーヴェイ女史が選ばれた。スーはこの連盟が1961年に設立されて以来5代目の、そして初めての女性による会長と

なった。

総会は、より多くの人々と各国連盟が運営に参画できることを考慮にいたれ、新しい I O F の運営機構を採択した。この組織の修正という新企画は、より効率的に、かつコストをかけない I O F の運営をめざすものである。

1999年の世界選手権(WOC)の開催国はイギリスに、また1998年のスキーO世界選手権開催国はオーストラリアに決定した。

次回のこの総会は1996年にイスラエルで開催される。

新 I O F 機構の採択

—今後の組織運営は方向性と柔軟性—

バルナで立てられた普及への目標は高く、そして組織全体への課題として定められた。

総体的なねらいのいくつかは次のとおり。
—世界のオリエンテーリングとして、より高い構顔を作り出す

—オリエンテーリングは、より多くの国々に拡げられるべきである

—オリエンテーリングをオリンピック・プログラムのひとつに

—オリエンテーリング大会のより以上の普及
ゴールはわずかであるが、その成就には I O F のなかでのより効果的かつ経済的な運営機構を必要とする。

目的は、新しい要求に見合った柔軟性を持ち、スポーツとしてのより高い正当性とよりよい認識を生み出すのに必要なすべての機能を約束するに足る組織を削りあげることである。

手短かに言えば、新機構がおかれる基礎は次のとおりである。

—より計画的かつ方向性をもった運営法をつくり出す

—各委員会3~5名の運営グループをもって基礎的な機構を形成する

—非常に明確な仕事については臨時のプロジェクト・チームをつくる

評議会の新メンバー

—第17回総会で各国代表者たちは、I O F 評議会に3人の新メンバーを選出した—

4つの会長/副会長の椅子は、男女2人ずつで占められることになった。このような男女平等を示す国際的なスポーツ連盟は稀である。今後の2年間、すなわち1994年~96年の評議会の構成は次のとおりである。

会長 スー・ハーヴェイ (イギリス)

首席副会長 オーケ・ヤコブソン (スウェーデン)

副会長 ヒュー・キャメロン (オーストラリア)

サロルタ・モンズバルト (ハンガリー)

評議員 *トーマス・プログリ (スイス)

*リマント・ミカイティス (リトアニア)

エドモン・チェチェニ (フランス)

エイナル・アンドスタド (ノルウェー)

*ブルース・ウォルフ (アメリカ)

(*印は新役員)

新委員会委員長の指名

—総会後の最初のミーティングで、新たに選出された評議会は6つの委員会を設置し、それぞれの委員長を指名した。—

各委員会のメンバーは今年の7月末までに選ばれることになっている。指名された委員長たちは、3~5人からなる各委員会運営グループの長として活動する。

運営グループはアイデアを生み出し、細かい仕事を遂行するために委員会の枠組みのなかにプロジェクト・チームを形づくっていくことになるであろう。プロジェクト・チームは旅費を削減するため地理的な考慮をした人選が行われる筈である。企画事業の終始ははっきりと示され、より多くの柔軟性が成就に役立つであろう。

—普及(DC)委員会: ビット・ヘルムス (デンマーク)

普及委員会の仕事は既にオリエンテーリングをとり入れている国々における質の向上ととり入れていない国々への普及拡大である。

—イベント(EC)委員会: デル・ヴァイ (オランダ)

ECはすべてのフットOイベントに対しての責任をもつ。これにはワールドカップ、さらにイベント・プログラムの企画やコントロールリングも含まれる。

—地図(MC)委員会: フミンク・ネーグ (デンマーク)

MCはI O F 地図規程およびその施行に関するすべての事がらを取り扱う。

—スキー(SC)委員会: ヴェリマルク・コルネニ (フィンランド)

SCはスキーOに関するすべての質問に応える。

—技術(TC)委員会: マックライ (オーストラリア)

TCはすべての国際大会の技術的な枠組みとコントローラーたちの指導研修のための責めを負う。

—トレイルO(Trail O)委員会: アフ・ブックス (イギリス)

トレイル委員会はトレイルOに関するすべての質問に応える。

(*委員長の国名は、オリエンテーリング・カルダ
=OVERSEAS=の国名コードを参照)

I O F イベント の新規則

—評議会は1995年1月1日から施行されることになる新しいI O F 大会競技規則を承認した。—

世界選手権(WOC)、ワールドカップ(WC)、ジュニア・世界選手権(JWOC)、ヴェテラン・ワールドカップ(VWC)、そしてその他の国際大会について、すべての前規則は改定される。

(この項、以下省略)

* I O F 情報は20ページへ続く。

* 文中のアンダーラインは訳者が付したものである。

速報・94年度ユニバーシアド

鹿島田・怪我で欠場／山本英・金田・金並 大健闘

この9月、第9回世界学生選手権大会（ユニバーシアド）がスイスにおいて開催された。10日のリレーを最後に全日程を終了した選手たちが帰国を始めている。

選手団は遠征に先立ち国内で5回の合宿を行い、万全の体制で旅だっていた（8月に入り、美ヶ原・車山高原での高地トレーニング：先月号本誌表紙写真／出国直前のSQUAD合宿：右下の写真…など）。8月21日の合宿が終わったとき、村越コーチに目標を語っていた。

「個人戦については、男子はトップの200%で走ればまあまあかな。目標は160%ぐらい。女子は全員が200%以内で走ること。団体戦は、男子はみんなが150%以内で走ればと思っている。カッシー（鹿島田）には当然1走をやってもらうから、どれだけ他の国に対して通用するかというのを確認してほしい。トップから5～10分位の差で2走につなげられれば…。女子については1チームには勝ちたいというのがずっと目標としてはある。4走まで順位がわからないような展開になってるといいと思う。今までの結果を見ると、実力を発揮して感ぜられないから、実力を出せば、テラインのタイプもあるし（テクニカルだけだと特に日本と違うということ）、いけるんじゃないかな。」

選手団は8月30日から現地地でトレーニングキャンプを行ったが、ここで残念な事故が起こった。男子エースの鹿島田選手が足に怪我をしてしまい、本戦のすべてのレースに出場できなくなったのである（怪我の程度、その後の様子などは不明）。本人にとっても日本にとってもたいへん残念なこととなった。本人は昨年のWOCに続き不運に見舞われている。

9月6日：ショート。

女子で金並選手が予選17位と健闘。惜しくもAファイナルの通過をのがしたが、ボーダーで健闘した。

9月8日：クラシカル。

ここで男子、山本選手がトップの132%、女子、金田選手が140%、金並選手

が142%と大健闘を演じた。ここ数年のユニバー・ワールドカップ・WOCを通して特筆すべき結果であるようだ。村越コーチの目標を大幅に上回り、200%以内についても、ほぼ全員が達成している。

ここまでの結果は、現地から佐藤信彦（日本学連・競技委員）邸に入ったFAXにより確認されている。残念ながらそれ以降の情報は、本原稿を作成している9月11日現在入手していない。

詳細は次号にて。

9月15日までにはほとんどの選手が帰国するようである。連絡のとれる方は、健闘をたたえてあげるとよいと思う。



8月21日：SQUAD合宿の集合写真。強化選手と合同で、ユニバー選手は国内最後の調整を行った。参加したのは、鈴木卓弥・松沢俊行・千葉あかねの各選手。

成績速報

ショート決勝

男子

1		26:04
2 5	小長井信宏	34:08
3 2	山内 亮太	37:21
3 3	山本 英勝	37:27
4 3	鈴木 卓弥	45:17
	松沢 俊行	DSQ

女子

1		30:40
1 5	金並 由香	38:40
1 8	植田 佳子	41:05
2 0	志村 聡子	43:09
2 2	稲村 仁美	47:05
2 8	金田 収子	57:07
2 9	千葉あかね	58:50

クラシカル

男子

1	Tomas Prokes	76:42
	山本 英勝	100:36
	小長井信宏	109:01
	鈴木 卓弥	110:26
	松沢 俊行	124:04
	山内 亮太	132:04

女子

1	Sabrina Fessler (SUI)	61:09
	金田 収子	85:43
	金並 由香	87:16
	稲村 仁美	102:23
	植田 佳子	104:33
	千葉あかね	123:27

リレーメンバー

男子

1走	小長井
2走	鈴木
3走	山本
4走	山内

女子

1走	金並
2走	植田
3走	稲村
4走	金田

長野県上伊那郡長谷村で起きたオリエンテーリング行方不明事件の真相

長野県オリエンテーリング協会 理事長 元木 悟

南アルプスに迫る伊那谷の高原、長野県上伊那郡長谷村の鹿嶺(かれい)高原は、人里から離れた標高1,850メートル地帯に広がる。三峰川水系県立公園内で、広さは約23万平方メートル。夏季平均気温は18~20度である。目前に南アルプス、西には中央アルプス、更に西方に北アルプス連峰があり、3つのアルプスが望める格好の場所となっている。夏のシーズンには県内外の団体小学生や家族連れが訪れ、お盆頃まで賑わいが続く。

8月10日、この高原でオリエンテーリング行方不明事件が起きた。事件についての情報を集めるうちに、あまりにもずさんな計画と運営に憤慨させられた。オリエンテーリングを知らない人には、オリエンテーリングは危険なスポーツと思われたことだろう。

私がオリエンテーリング行方不明事件について知ったのは、8月11日の朝のニュースであった。その日は報道関係から私のところにも数件の問い合わせがあった。地元紙である信濃毎日新聞では第1社会面で「長谷村の高原で小中学生 4人行方不明 オリエンテーリング中」と扱っている。そのつい3日前には「第15回記念 長野県オリエンテーリング2日間大会 成功」の記事を全県版で取り上げてもらったばかりであったから、我々もたまったものではない。「オリエンテーリングは危険なスポーツなのか?」「どうして迷ったのだと思いますか?」「オリエンテーリングについて教えて下さい」など、いろいろ聞かれた。断っておくが、このキャンプの主催者から長野県オリエンテーリング協会に開催届は出ていない。また、ここ6年間オリエンテーリングを行っているという話したが、今回の事件が起こるまでオリエンテーリングをやっていることは一切知らなかった。ちなみに鹿嶺高原にはパーマネントコースは設置されていないし、O-MAPも存在しない。

このキャンプで行われたオリエンテーリングは主催者の言葉を借りると「ストレートハイク」と言うらしい。「地図も持つと簡単にゴールに行ける」ため、地図を持たせず、方位磁石だけを使って一定方向へ真っ直ぐ進むゲームと言う話である。更に、主催者は小中学生をわざわざ外が見えない車で出発点に連れて行き、方位を教えゴールへ向かうように指示したようだ。このオリエンテーリングのコースは、キャンプを主催した神奈川県内の「ラーラスポーツ企画」(高橋一美氏経営)のアルバイトの大学生が7月26日に設定したもの。尾根と舗装道路の囲まれた場所で通行可能度の良い限られたエリア。ストレートハイクは直線距離にして約400メートルで、主催者によれば「距離も短いし、迷っても上りさえすればキャンプ場付近に出てこれる」ため設定したのだそうだ。

さて、行方不明の小中学生4人は幸いにも翌日、約10キロ離れた民家で見つかり、無事に保護された。4人は小学5年生から中学3年生のグループ。主催者の言葉を忠実に守り、「約1時間半後、青いシートがかかったゴールらしいところにたどり着いた」という。しかし「人が誰もいなかったので、ゴールとは思わず、進んでしまった」らしい。主催者側も「4人がゴールに到着した時にゴールの監視係が不在だった」とスタッフのミスを認めている。更に、ストレートハイクでは地図を持たせていなかったため、「道に迷った時は下らずに上に進め」との指示に従ってずっと歩き続けたという。

オリエンテーリングを知らない人が、一種のアドベンチャーゲームで、オリエンテーリングという名称を使って事故を起こす。オリエンテーリングというスポーツを世間に広めようと努力している私たちにとって、今回の事件は大きな痛手となった。このキャンプに参加した子供たちは、オリエンテーリングをきつと危険なスポーツという理解で今後生きて行くだろう。O-JAPANの編集者の田口氏も言われているが、「全国の青少年野外活動施設の指導者を集めて、少なくとも基本的な指導法・運営法の研修を『普及・教育』専門委員会は早急に行うべき」という考えに私も同感である。このような誤った認識のオリエンテーリングの事故で、正当なオリエンテーリングがマイナスイメージならないようお願いしたい。

＝地方新聞から＝



長谷村の高原で小中学生 4人行方不明

オリエンテ
リング中

十日午後六時三十五分ごろ、上伊那郡長谷村の鹿嶺高原で、首都圏からキャンプに来ていた小・中学生四人がオリエンテリングに出たまま戻らない、と村役場から伊那署に届け出があった。同署と村消防団、役場職員など約百人が捜索したが、午後十一時現在、手

がかりは得られず、いったん打ち切った。十一日午前五時から、県警へリを使い捜索を再開する。行方不明になったのは、静岡市千代田、市立東中三年西尾早織さん(二七)、茨城県猿橋郡五霞村、村立東小六年阿津沢有紀さん(二七)、東京都東久留米市中央町、市立第一小五年大堀晃弘君(二〇)、埼玉県川口市新井宿市立神根東小五年小川裕太君(一〇)。

同署の調べだと、四人は、神奈川県内の「フォーラスポイント企画」(高橋一美さん経営)が募集したキャンプに七日から五日六日の予定で参加。オリエンテリングは午前九時半ごろから、村営鹿嶺高原キャンプ場付近で行い、四人は同じ組でスタートしたが、到着予定の昼前になっても戻らず、参加者が捜していた。

役場へは午後四時十分ごろ、キャンプの責任者が届けた。キャンプには小・中学生三十一人、付き添いの大学生ら十五人が参加。オリエンテリングは約二時間のコースを設定し、昼食や水筒を持たせたといい、村役場によると、十日夕方の天候は役場付近で小雨があったが、落雷などはなかった。

同キャンプ場は、長谷村役場から車で約三十分の標高一、八五二メートルの高原。東側は南アルプスとの間に小黒川が走り、急しゅんな溪谷になっている。

☎ : 8月11日付「信濃毎日新聞」より
☎ : 8月8日付「信濃毎日新聞」より

地図・コンパス手に 暑さの中走り回る

伊那で県オリエンテリング大会

県オリエンテリング協
会は六、七日の二日間、第
十五回記念県オリエンテ
リング大会を伊那市の鳩吹
公園で開いた。二日間で全
国から延べ約千人が参加し
場メンバーまで外国人十六
人を含む約五百人が出場。
十二クラスのレースを行
い、猛暑の中、地図とコン
パスを手に林の中を走り回
った。アイルランドから参
加したトニー・コッターさ
ん(二七)は「とても暑いコー
スですが、この暑さには参
りました」と気候の違いに
戸惑っていた。



ゴールするオリエンテリングの参加者たち(伊那市の鳩吹公園)

大会実行委員長の元木悟さん(二七)は「県からの出場者は十人ほどで、とても寂しい。県内には素晴らしいコースが多いので、ぜひオリエンテリングに目を向けてほしい」と話していた。選手権クラスは三日間の総合成績で、男子は富田吉郎さん(多摩OL)、女子は福士淑子さん(東京HR C)が優勝した。

提供：元木 悟氏 (長野県オリエンテリング協会)

SQUAD REPORT

すこーどればーと

JWOC (ジュニア世界選手権大会) 閉幕

JWOC94は去る7月12-17日にポーランドにおいて開催された。本誌6月号で紹介した選手の皆さんは存分に健闘をしてくれたようだ。チームオフィシャルの安斎秀樹氏から、大会直後に届いた手紙には『東欧や旧ソ連から多数のエントリーがあり、参加人数は過去最高の32か国、260人（オフィシャル除いて）。バス輸送には警察や軍隊が先導したり、交通規制をしたりしています。ポーランドの生活は不便なことも多いですが、彼等の熱意には感心させられます。本当に華やかな大会でしたし、日本選手もその中で充分目立ちました。オフィシャルとしてこれほど楽しいことはありません』と書かれている。

本号では、選手を代表して大西選手の参加記を掲載しよう。

1994JWOCに参加して

大西真理子

7月3日、関東に住んでいる私達（太田、榎本、世古口、加曾利、中村、大西）は大勢の仲間とコーチ達が見送る中、日本を立ち、約1日をかけて案審さんが待つ、ワルシャワに到着しました。1日遅れて、関西の金沢さんと合流して、大会が行われるグディニアへと向かいました。ワルシャワからグディニアまで列車で約4時間の旅を各々が楽しんだのです。

4日の夕方にトレーニング・キャンプ入りした私達は、すでにトレーニング・キャンプ入りしていたカナダとアメリカの選手達と知り合いになり、お互いの国のマップを見ながら話をしたり、マップの交換をしました。彼等の話によると、東海岸の帯に彼等がよく使うテラインは十数個つながっているそうです。実際につながっているテラインを見せてもらいましたが、同じ地形でも調査する人が違うとこれほど表現が違うのかと驚いた記憶があります。つたない英語を駆使し、長旅の疲れも忘れるぐらいに話をして夜が更けていったのを覚えています。

5日から10日までトレーニングをしたのですが、私が一番驚いたのは、トレ・キャン用に用意されたテラインが6個と非常に多かったからです。国際的な大会だったらこれが普通かもしれないのですが、海外に遠征するのが初めてで、オリエン歴の浅い私はスケールの大きさにやっぱりここは外国なんだなあと感じました。キャンプ中の毎日の流れは、午前中、朝食後に近くのテラインでクラシカル及びリレーの練習を行い、午後はバスで1時間ぐらいいったところにあるテラインでショート練習をしました。午前中の練習に使ったテラインというのは日本の冬から春先ぐらいのテラインと非常に似ており、ヨーロッパの地形になれるまで時間がかかるという噂は根本から覆えさせてしまった気がします。そのくらい日本と似ているな、と思いました。それとは打って変わってショートのほうは等高線が2.5メートル間隔という今まで体験したことのないもので、現地にいってものっぺりとした土地が広がっているようにしか最初は思えなかったのです。結局その地形が少しつかめたなあと思ったのは情けないことに大会の決勝のときでした。間に半日の休みをとった以外は毎日山にはいることになり、今までに体験したことのないくらいオリエン漬けの日々でした。なれない場所でのオリエン三昧の日々に疲れがたまったことは事実ですが、それ以上に白い山の中に行くのが楽しかったです。

そして、11日に選手村へと移動した私達は、各国の選手を目のあたりにしてこれから大会が始まるなあ、と少し緊張まじりで思った記憶があります。全体の雰囲気としては、インカレを考えてくれればいいと思います。あの雰囲気周りを外人で囲んで、わからない言語が氾濫している場を想定してくれば想像もつくと思います。そのような雰囲気の中、モデル・イベント、ショート予選の抽選、町中を歩いたパレード、開会式と事が進んでいきました。

13日にショート、14日の午前中にトレーニング、午後フリー・タイム、15日にクラシカル、16日にリレーが行われました。13日のショートは、午前中に予選、午後決勝とあったのですが、午前中の予選では初めてのエリートコースを走る緊張、2.5M間隔の等高線の地図への慣れ、そして私自身の地図読みの手さから運が彼方へと飛んでいってしまいました。決勝ではやっと何とか地図にもなれ、わかりにくかった地形も読み取れるようになりました。

15日のクラシカルは前日の疲れも残ってか、前半の給水所までしか体力が持たず、熱い中長時間山の中にあることになってしまいました。走っていて思ったのは、やはり夏でも白い山の中でしょうか。疲れ果ててゴールにたどり着く間際には、いろいろな国の人々がレーンの周りで声援を送ってくれた姿が今でも頭に焼き付いています。一緒に行ったメンバーも自分がゴールして少したつとまだゴールしていないメンバーへはもちろん他の国の選手にも声援を送りました。ここでもまた次の日のリレーへの団結力みたいなものができたような気がします。

最終日の16日はリレーがありました。男子は4人いるので、日本チーム1チーム（3人：世古口、太田、榎本）と、あと一人（加曾利）はロシアの人と組むことになりました。女子は3人なので1チーム（金沢、中村、大西）つくって出場しました。スタートは、1分前に静かになるインカレとは違い、皆の声援が飛び交う中秒読みが開始され走者スタートしました。コース内2つほど設置されているラジコンから、自分たちのチームの番号が呼ばれるのをまだか、まだかど聞いた覚えがあります。男子は全員ウム・スタートにはならずスタートできたのですが、女子は残念なことに、1走から2走にわたるときにウム・スタートになってしまいました。でも、私も含めておそらく全員がこれがこのポーランドでのオリエンは最後だ、という意識を持って走ったようです。このリレーのほとんどの走者がゴールしたぐらいに、今度は日本にはない、“オフィシャル・レース”がありました。これはその名の通り、オフィシャルが一斉にスタートし、選手が走ったコースを走るものです。各国、自分の国のオフィシャルが帰ってくると最後のビジュアルの所でとうせんぼをしたり、自分たちの国の旗を持って一緒に走ったりとゴールの仕方は様々でした。私達日本チームは、安斎さんが来ると近くで写真を撮り、その後手製の小さな旗を持ってゴールしました。

このようにして大会が終わったわけですが、結果はどのようであれ、たいへんためになったと思います。特に、世界の高いレベルをオリエンを始めて2年目の私が体験できたのはまたとない機会でした。今後、この体験が自分のオリエンに生かしたいと心から思っています。これからもう頑張りたいと思います。この遠征は私に改めてそのように思わせてくれた有意義な遠征でした。

大会成績 (オフィシャルの安斎氏から送られてきた手紙より引用する)



クラシカル (7/15)

M 148人 10800m	
1. BANACH ROBERT	POL 71 : 41
2. GLISZCZYNSKI JANUSZ	POL 72 : 57
3. TOLKKO TOMMI	FIN 74 : 22
103. 世古口裕史	102 : 10
120. 太田 晃弘	111 : 53
124. 榎本 和弘	117 : 57
133. 加曾利正典	131 : 56

W 110人 7200m	
1. GRONDAHL CHRISTINA	DEN 54 : 24
2. OLSSON PIA	SWE 55 : 53
3. KOZLOWSKA EWA	POL 56 : 49
103. 金沢 麻衣	111 : 43
107. 大西真理子	124 : 30

リレー (7/16)

M 50チーム	W 36チーム
1. RUS1 156 : 57	1. SWE1 125 : 03
2. RUS2 160 : 14	2. FIN1 125 : 49
3. FIN2 161 : 25	3. POL1 126 : 45
44. 日本 228 : 45	35. 日本 276 : 34

ショートファイナル (7/13)

MA 48人 5180m	
1. ENKVIST JON	SWE 28 : 50
2. JOHANSEN HOLGER-HOTT	NOR 29 : 43
3. TOLKKO TOMMI	FIN 29 : 56

MC 53人 4050m	
1. CRISTELLON ENRICO	ITA 23 : 17
17. 太田 晃弘	27 : 02
24. 世古口裕史	28 : 16
37. 榎本 和弘	31 : 00
44. 加曾利正典	35 : 03

WA 48人 4090m	
1. LEA SYNNE	NOR 25 : 31
2. OLSSON PIA	SWE 26 : 15
3. HYTTINEN TERHI	FIN 26 : 49

WB 63人 3590m	
1. ANTTILA LIISA	FIN 24 : 29
47. 金沢 麻衣	40 : 53
53. 大西真理子	45 : 52
54. 中村 正子	46 : 05



日本代表選手団 (写真の提供は、大西真理子選手。

残念なことに、ご本人は写っていない)

高校生選手紹介

榎本和弘くん (麻布高校2年生)



今回のJWOC参加者の中に唯一人の高校生がいる。麻布高校2年の榎本君。彼は去る3月に行われたインターハイで1年生ながらに優勝をした。実は中学生のころから注目をされていた有望選手である。

地図を読むことは昔から好きだったようだ。今も彼はその読図力をもって、他の高校生を圧倒している。でもトレーニングはあまりしないというから典型的な技術派か。いや、彼には地図を3次元的に読める優れた能力があり、コンパスもあまり使わ

ないそうだから、技術派というよりは、天性ものといったほうがいい。
かつてトータスの5日間大会で中学生ながら脚光を浴びた鹿島田浩二を彷彿させるものもあるが、それ程の人物であるか否かは、大学以降のお楽しみである。
OLを始めた中1の時の部長が、昨年JWOCに遠征した京都大学の諏訪選手。その次の部長が、今年一緒に遠征した東京大学の太田選手である。そして彼も、この夏まで麻布の部長を務めた。50人近い部員をまとめるのに相当苦労もあったようだ。
進学校の彼は、この夏が終わるとクラブ活動にさよならをして受験体制に入る。

JWOCは1学期の期末試験を免除されて(ある救済措置をとられて)、遠征したそうだ。このあたりの麻布学園の姿勢には感心させられる。

榎本君の将来に期待しよう。

20才以下の出られるJWOCには彼のように高校生の参加もちろん可能である。彼自身は、トータスの先輩である国沢君や、SQUAD・JWOC担当の利光君から誘いがあったようだ。これはという高校生がいればSQUADに推薦をされるとよい(基準は厳しいが)。表退きみの高校OL界にはいい刺激となるかもしれない。



おねーさまオリエンティアにも人気が高い。彼がファンだという、金子しのぶ選手と。

大会運営学

— 大会を開き、育てる法 —

第3回 運営マニュアル

早大OC寿会 池ヶ谷悦朗

現行マニュアルを点検する

現在の運営マニュアルが、守備範囲の狭さという大きな問題を抱えていることは、前回も述べた通りである。当然、これからは、その範囲を広げていくことを考えなければならない。が、その問題については、次々回くらいに触れることにして、今回は、現在の運営マニュアルにおける、その他の問題点について考えてみたい。

連載初回のイントロダクションでも述べた通り、私は、卒業後すでに7回、早大OC大会の運営に携わっている。なかでも平成2年度の第13回大会（『乙女道路』）は、第12回大会（『忍野八海』）における電光速報失敗の翌年ということもあり、最も深くかかわった大会である。この年、私は、計算センター関連だけでなく、運営マニュアル全体をかなり細かくチェックして、その不具合をまとめ、チーフ会に提示した。その指摘項目を内容別に分類してカウントした結果を表1に示す。

このように、私の指摘の中で最も数が多いのは「誤りや記述不足に関する指摘」である。これは、重箱の隅をついたような指摘で、たいして重要ではない。重要なのは2番目の「インターフェースミス」である。

インターフェースは、文字通り、接触面、接点の意。つまり、インターフェースミスとは、部署と部署の接点で起こる食い違い、部署間の連携にかかわるミスのことである。

表1 第13回早大OC大会のマニュアルに対する指摘

指摘内容	件数
誤りや記述不足	17
インターフェースミス	13
5W1Hが不明確	10
「こんな場合は？」という例題	9
実物、実際の運営方法との不一致	5
改善提案	5
合計	59

また、すでに外部に発表済の要件とマニュアルの内容にズレがあるケースについても、インターフェースミスと呼ぶことができる。両者を区別する場合は、前者を内部インターフェースのミスと呼び、後者を外部インターフェースのミスと呼ぶ。単にインターフェースミスと言った場合は、おもに前者を指す。

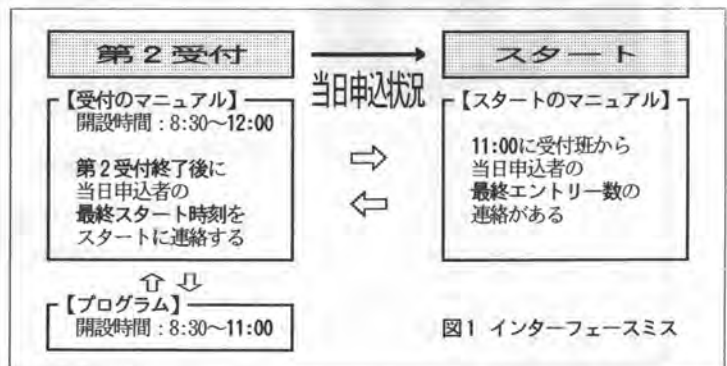
さて、私がインターフェースミスを重要視するのは、それが重大な結果をもたらすからだけでなく、大会を計画する作業そのものの進め方の誤りに起因していると考えられるからである。そこで、今回は、このインターフェースミスの問題を中心に、マニュアル作成時の留意点について述べることにしよう。

インターフェースをまず決める

『乙女道路』のマニュアルから実例を挙げよう。図1を参照されたい。ここには、一例にして内部と外部の両方のインターフェースミスが含まれており、インターフェースミスを説明するには、まさにうってつけである。言うまでもなく、内部インターフェースミスとは「受付がスタートに連絡する情報の内容と時刻の食い違い」であり、外部インターフェースミスとは「第二受付終了時刻のプログラムとマニュアルとの食い違い」である。

第二受付の終了時刻については、プログラムよりマニュアルの方が遅くなっているの、参加者に迷惑をかけることはないものの、このままではスタート役員を1時間以上も待たせることになる。また、情報項目については、より深刻である。スタート班では、最終エントリー数を連絡してもらって、全員出走したか否かの確認をしたいのだが、最終スタート時刻を聞いたところで、どうすることもできない。前提としている情報が入ってこないために、スタート班で用意したロジックが、まったく機能しなくなってしまうのである。もっとも、スタート班も最終スタート時刻を教えてもらわなければ、何時までいけば良いかの見通しが立たない。その意味では、最終スタート時刻の通知にも一理ある。受付班のマニュアルは、スタート役員のためを思っているの記述なのだろうか？— いずれにしても、このマニュアルの、この部分はボロボロだと言って良い。

果たして、皆さんのクラブのマニュアルは大丈夫だろうか？— 各パートのモノや情報項目の入りと出と、その運び手、および、その時刻を書き出してみよう。さらには、プログラムと突き合わせてチェックしてみよう。そうすると、見た目は裏腹にボロボロだったりするかも知れない。



大会というシステムは、部署というサブシステムが、他の部署に対して出すべき情報を出すべき時点で出し、受け手が受け取って、加工の上、また出す—その正常な連鎖の結果、初めて正常に動作する。このOC大会のマニュアルは、各部署内部の仕事のやり方については良く書かれていたものの、部署間の整合性に問題があった。発信者だけで受信者のない情報、要求はあっても発信者がいない情報や、時間的なズレ、そこにあるはずがないのにどういうわけか使われているモノなど、多くのインターフェースミスが見受けられたのである。しかし、実際には、そのインターフェースの方が、はるかに重要なのだ。どんなにやり方が立派でも、アウトプットが見当ではどうしようもないではないか。逆に、各部署が、出すべきアウトプットを正しく出していれば、内部のやり方はどうであれ、大会は正しく機能するのである。

では、なぜ不整合が多発したか—。

それは、各パートが思い思いに作ったマニュアルを突き合わせて、後で調整しようなどというボトムアップ的な手法をとったからであろう。地図調査を境界合わせから始めるように、本来、マニュアル作りも、まずパート間の約束ごと、インターフェース固めから入らなければならないのである。部署というブラックボックスと、モノや情報の入りと出とその主語、および、その時刻だけを記入した1枚の図を作り上げることが先決なのだ。その上で、各部署が、そこで定めた約束ごとを実現できるように内部を構築していく。それが正しい進め方である。(図2参照)

マニュアル先行なら毎回共通の指針を

さて、もう一つの不整合、プログラムとマニュアルのインターフェースミス—これは、

本来、あってはいけないことだ。そもそも、プログラム上で宣言したことを実現するための内部的なやり方を記述するのがマニュアルである。したがって、マニュアルがプログラム記載事項にのっとっていないというのは、本末転倒以外の何物でもない。しかし、現実には、ほとんどの場合において、プログラム作成よりもマニュアル作成を先行させている。確かに、この状況下では両者の整合性を確保するのも容易なことではない。

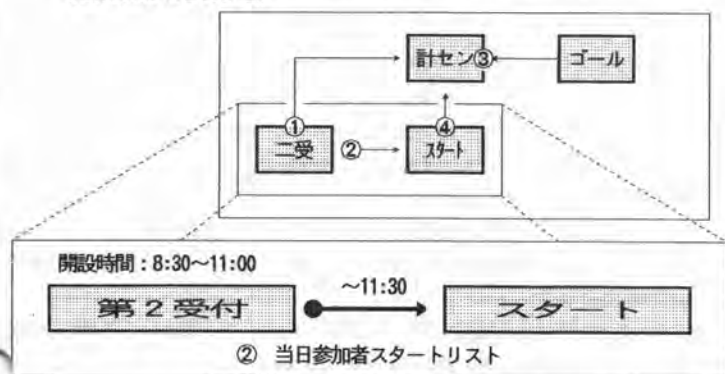
たとえば、ストリーマーの色ひとつを例に取っても、マニュアル作成時点で決まっているとは限らない。このような場合、マニュアル執筆者がとりあえず適当に見つけて書いておくなどということをしてはいけない。そんなことをするくらいなら、「プログラム参照」とでも書いておいた方が、はるかに良心的で、正確というものだ。マニュアルは、本来的に、プログラム掲載事項に従うべきもののだから。

とは言え、このような記述では、いかんせん現実味に欠け、具体性に乏しい。そこで、ストリーマーの色であるとか、受付開設時間、表彰式の開始時刻といったルーティーンな項目については、過去の事例に基づくなどして、毎回共通なものとして、決めておくことが望ましい。三重県庁OLCの早川正美氏によると、東海地区OL連絡協議会では、すでにストリーマー使用色の指針を設け、運用しているという。(PC-VANのOLフォーラムより)

このように、いわばルール化しておくことにより、仮にマニュアル作成を先行させた場合でも、それをよりどころとして、迷うことなく記述することができる。プログラムとマニュアルの双方が、共通のよりどころを持つことによって、外部インターフェースミスを未然に防ぐことができるのである。

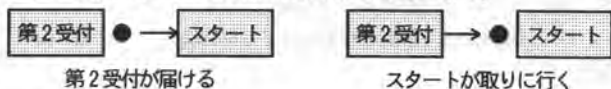
マニュアルというと、私たちは、すぐに細かなshow toが記されたものを思い浮かべるが、大会運営マニュアルは、それとは少々異なるものと考えた方が良いのかも知れない。大会のマニュアルは、マニュアル兼“大会の設計図”なのだ。運営者は、これを作ることを通じて自分たちの大会を構築する。しかし、この設計図には重大な欠陥があった。各部署の内装ばかりが描かれ、満足な見取り図や外観図がなかったのである—。

- (1) 各部署の中身のことは、ここでは考えない。(=ブラックボックスと見なす) 各部署がどのようにモノや情報を出し入れすれば、大会全体が機能するかを大所高所から検討する。



② 当日参加者スタートリスト

- (2) モノや情報の向きだけでなく、誰が動くのかを明記する。



- (3) 縦軸に時刻、横軸に部署を取ったタイムチャートを作成し、モノ・情報の出入りを記入すると、時系列の把握がしやすい。また、過不足の発見も容易。

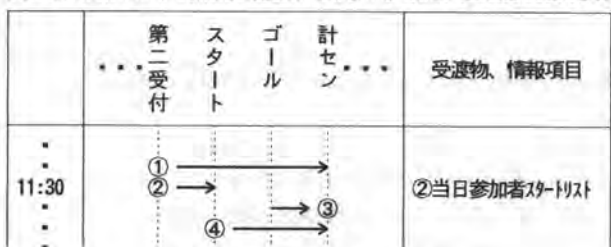


図2 インターフェースの決定

初心者教室を開催

広島OLC：
三好 正夫

「はじめての人のためのオリエンテーリング教室」と名づけた初心者教室を、第2土曜日で学校が休日の9月10日に、広島城・中央公園で開催しました。

今回は初の試みとして実施日を土曜日と決め、同時に会場を市内としたのに伴って、県教委、O-JAPANの他に広島市教育委員会の後援をいただきました。過去に後援の実績がないために手続きは多少面倒ではありましたが、一度実績を作っておけば後々何かと都合がよいのではと考えて、申請書を提出し許可を得ました。同時に担当者から「学区の体育指導者研修会が開かれるので要綱を配布しましょう」と積極的な協力申し入れもあって400部あまりを配っていただきました。

(その割には参加者数が伸びなかった?けれど、指導するには最も適した人数だった)

そんなことで当日の参加者は約30人。いつものとおり午前中1回目は参加者を2~4人のグループに分け、各グループに指導員が1人ついて基本を説明しながら広島城公園内のコースを回り、続いて2回目はグループのメンバーだけで復習しながら廻ってもらいました(勿論、コントロール位置は1回目と変えてある)。午後は大会と同じ形式により、お堀の外周と中央公園も含めたコースに挑戦してもらいましたが、午前の指導が良かったのか、皆さん予想外の好タイムでゴール、特に子供さん達の元気な姿が印象に残りました。

終ってからの感想の中で、「オリエンテーリングとはこんなに面白くて楽しいものとは知らなかった。もっともっと普及に努めてほしいし、私達でできることがあれば協力します」という嬉しい励ましの言葉をかけて下さった方もあり、今後の普及活動に明るさを見出すことができたように思いました。



広告掲載のお願い

日本学生オリエンテーリング連盟
第17回学生選手権大会実行委員長
松岡 秀明

現在、第17回インカレの大会用プログラム、大会報告書に掲載する広告を募集しています。あなたやご家族の勤めていらっしゃる会社、行きつけのお店や所属クラブの広告、大会の宣伝、母校の応援、個人広告など、何でも結構です。評議員、賛助会員、学生の皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

なお、広告依頼書、インカレの説明等必要な方は、問合せ先までご請求ください。

1. 広告掲載の場所
大会プログラム、大会報告書
2. 広告の大きさ
1/8ページ(縦58mm, 横74mm)を1コマとして、1, 2, 4, 8, 16コマ単位。
3. 広告料

	企業等	地域クラブ, 大学OB会等
1コマ(1/8ページ)	6,000円	3,000円
1コマ(1/4ページ)	12,000円	6,000円
1コマ(1/2ページ)	20,000円	10,000円
1コマ(1ページ)	40,000円	20,000円
16コマ(2ページ)	70,000円	35,000円

但し、裏表紙 60,000円、表紙見返し 50,000円

大会プログラム、大会報告書の両方に広告を出される方は、いずれか低い方の料金を半額にさせていただきます。

4. 広告料を添えて、原寸大の原稿を下記申込先まで送付してください。その際に掲載場所が大会プログラム、大会報告書、両方のいずれなのか明記してください。

○郵便為替の場合

坂野 晴彦 〒170 東京都豊島区東池袋5丁目49-7

藤和シティーコープ新大塚II 703号室

○郵便振替

口座番号: (記号) 12310 (番号) 31411291

加入者名: 第17回インカレ実行委員会 代表 平山寿美子

5. 締切

平成6年11月30日

平成7年2月28日 (大会報告書のみ広告に掲載する場合)

6. 問合せ先

吉田 政弘 (日本学生オリエンテーリング連盟事業部長)

〒422 静岡市大谷 2171 松永荘B室 ☎054-238-3594

坂野 晴彦 (第17回インカレ実行委員会広報担当者)

〒170 東京都豊島区東池袋5丁目49-7

藤和シティーコープ新大塚II 703号室 ☎03-5952-9493 (~23:00)

パ = マネントコース

りぼ〜と



□1994年3月6日(日)
愛知県 No.2 ~木佐木 94-2 ~
「定光寺」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 0-MAP

JR中央西線「定光寺」駅下車。無人駅から長い階段を下り70m直進して左折。すぐ大きな橋を渡り国道を横断して800mほど行くと正伝池に出る。右折して池の西側を回るように進むと、池の東南に「定光寺レストハウス」がある。ここは定光寺公園内の食堂なので、冬季(11月~3月)と雨の日と、月曜日(定休)は休みとなる。行く時は必ず電話で確認してから行くこと。マップは「定光寺レストハウス」にある。そこから30mの所にマスターマップの大きな掲示板があり明瞭。マップは1:15000で、平成元年調査のため精度は100%。コースは、山と丘が90%、人家や畑が10%で、高低差は150m。④→⑦は東海自然歩道で特に整備は満点。当日は日曜日で快晴のせいもあって、10分おきにハイキングの人達に出会った。④と⑤の間には労働者研修センターがあり、中にはレストランや売店がある。ポストは標準より少し低めだが、頭の大きさは普通で紅白は実に鮮やか。特に難解ポストはない。マップ上で、ポスト位置を小さな△印で明示してある。おそらく大会の時に使用したマップの名残りであろう。この△印は、マスターから転記する時に便利である。全国No.が66の二桁ということは、PCの中では大先輩になるわけだが、マップは精巧で、ポストには錆も無く、コースの整備は完璧で、生き生きとした感じのコースであった。

「定光寺レストハウス」は、11月頃から3月の間でも、日曜日と祝日は11時から開店していることもあるので、前もって電話で聞いてみるとよい。マップは瀬戸市教委体育課にもある。

コースの総合点は91点。私の推薦コースの中に入れた。
(定光寺レストハウス ☎0561-48-5355)
(瀬戸市教委体育課 ☎0561-48-0500)

□1994年3月7日(月)
岐阜県 No.3 ~木佐木 94-3 ~
「恵那山峡」

[距離] 12 km
[ポスト数] 10本 準 0-MAP

JR中央西線「恵那」駅下車。駅前の3番乗場から「恵那峡」行きのバスに乗り終点下車(所要18分)。大きなホテルが見える方へ200mほど下ると、左側に土産物屋「渚」がある。マップとマスターは「渚」にあり、マスター掲示板は「渚」から30mの所にあり、何とか判読可能。「渚」は観光地の売店なので冬は閉店が多い。11月~3月の間は必ず電話で確認してから行くこと。マップは準0-MAPで1:20000と書いてあるが、実は1:10000である。このミスはスタートから①までの歩測ですぐわかる。調査が昭和53年のためか精度は80%。特に点線の小径は消滅したものが多すぎる。コースは、山と丘が60%、田園など30%、舗装道路10%で、高低差は60m。スタートから②までを除けば、あとは観光地のためコースの状態は良好。ポストマークは標準の大きさで、10本ともあるが、③⑧⑨はほとんど紅白が消え、錆の形で記号が判読できる状態。その他も錆がひどくポストが泣いていた。難解ポストは③と⑧。③の手前に「立入禁止」の低い柵があるが、中に入れてもらい5mほど行くと老衰した③がある。また、マップによると小径を行けば⑧があるようになっていたが、小径など雲散霧消。舗装道路から40mほど内側の田と畑の境に⑧が倒れかかっている。しかも、紅白が消えているため、道路からは周囲と見分けがつかない。どのレポートを見ても①の前後が問題になっている。富田氏は「このコースは逆回りが良い」と結論された。私はこの言を守って逆回りを実行した。逆回りについて記すと、②までは問題なし。②で直進すると小道と右折する道に分かれる。私は右折してから谷へ降りて行ったが、谷川の手前120mの間はマップ上の点線の小径は90%消失して、疎林の急坂を下る難コースである。どうやら②から直進した方が良さそう。谷川へ下りき

ると目の前に渡河地点があった。飛び石伝いに川を越え、残雪を踏んで240m行くと川と沢(幅1m)の交点に①がある。すべてのリポーターが「川沿いの道を行くこと」を力説しておられるが、私は敢えて急坂の直登を選んだ。実際には40度以下の斜面だと思うが、体感としては60度以上である。この急坂の小径は、登り始めてから30mほどで消失してしまい、後はコンパスだけが頼りの悪戦苦闘が続く。220mほどで頂上に着いた。「やったあ」の一言に尽きる満足感と爽快感。山頂の何処へ出たかと言えば、「千畳敷」の大岩の隅にある極小の社殿の所である。したがって、順回りの場合は、このミニ社殿の背後から下りて行けばよい。下りる場合は①にしっかりコンパスを合わせておくこと。85%径が無く、下の状況は全く見えないからである。「順回り」にしる「逆回り」にしる。スタート(ゴール)と①の間は、「川沿いの小径」をたどる方が無難である。上記のように「山越え」も可能であることを実証したくて、敢えて挑戦したまでである。しかし、「山越え」で大汗をかいた裏面として、「千畳敷」の大岩(50畳ぐらい)と、その近くの天然記念物「傘岩」を觀賞できた。マップ上で、山頂の鳥居の印がミニ社殿で、そのあたりが「千畳敷」。そこから30m強の所に「傘岩」がある。

恵那峡大橋(150m)と大井ダム(えん堤 276m)からの景観は、まさに天下の絶景であった。

このコースは13年ぶりの2度目であった。昭和56年3月、岐阜県で開かれた全日本OL大会に参加しての帰途、立ち寄って歩いたのが最初の出会。その当時のマップを見ると、マップは現在と同じものだが、ポスト順は現在とは逆回りにNo.がついている。何時から回り方が反対になったのだろうか?それとも私の転記ミスだったのか?昭和56年3月は、スタート①→②→大井ダムえん堤と進んだが、その当時はダムが改装工事中(57年完成)で、「えん堤」は通行禁止になっていた。したがって、えん堤から引き返して、スタートから川沿いに⑩(現在の①)まで行き、残りのポストは時間の都合で断念した。

(土産物屋「渚」 ☎0573-25-2269)

レポート: 〒185 国分寺市泉町3-5-6-104
木佐木輝雄

□1994年3月27日(日)
静岡県 No.18 ~大高 94-8 ~
「川口村良岳」

[距離] 8 km
[ポスト数] 12本 PC・O-MAP

大井川鉄道「家山」駅下車。駅前にスタート地点で案内板があるが、例によってマスターの掲示は無し。駅窓口でマップを求めると暫く探してくれたのち、「よう分からんでな」という返事。それでも貼ってみると、漸く1枚だけかつてマスターマップに使っていたような使い古しのスコアOL用のマップが出てきた。富田さんのレポートでPC用のマップはもう無いと聞いていたので、ひとまず安心した。PCマップとスコアマップの違いは公認ナンバーの有無くらいなもので、地図自体は同じものである。また、スコアマップにはポスト位置が印刷済みでアルファベットの12ポストがPC用のポスト。ポストは標準のものだが、①⑤以外のポストは一回り大きな三角頭が被せられて新しくなっている。大井川沿いの山裾を歩くコースで、他のコースと比べると茶畑よりも水田が多く見受けられる。①は元々はMだったようだが、Aと塗りなおされている。ただそれもすっかり色落ちし、MとAがダブって見え、非常に紛らわしい。登録はAの模様。②から下っていくと線路沿いに出る。容易に線路に入っていくが、絶対に立ち入らぬこと。④は倒れている。⑤ポロポロ。⑥への山道の途中には崩壊地がある。他に迂回するルートもないので何とか上を回ったが、一つ間違えば転落の危険がある。もしかしたら沢に下ってしまっても行けたかもしれない。⑥は頭と棒がばらばらになって倒れていた。⑦へ登る小径は一昨年完成した砂防ダムにより分かり辛くなっているが、しっかり存在しているので見つけ出せば問題なし。⑩からは「野守の池」が見渡せる。ごく最近このスコアOLが使用されたような形跡があったので、マップもどこかにはあるのだろうか？が駅では入手できないので要注意。

(大井川鉄道 ☎05474-5-4111)



□1994年4月3日(日)
三重県 No.9 ~大高 94-9 ~
「亀山」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

関西本線「亀山」駅下車。駅前に案内板があり中のマスターは判読可能。マップは駅前「伊藤弁当店」にある。昭和63年10月から平成元年9月にかけて調査された新マップ。コースも大半が変更されている。ポストは②③⑦⑧⑨が鉄製の古いポストで、他は更新されている。鈴鹿川の南に広がる丘陵地帯を巡るよく整備されたコース。概ね一本道だが、③～④、⑤～⑥はルート選択ができる。④への最短ルートはこの時期でも草が繁茂していたので夏場は避けたほうがよいだろう。マップの「このコースの特徴」でも書かれているとおり、コースは平凡でPCとしての見どころがないが、何よりもルート、ポストともしっかりとしているので安心して回ることができる。
(三重県OL協会 ☎0592-24-2404)

□1994年4月3日(日)
三重県 No.15 ~大高 94-10 ~
「関」

[距離] 10 km
[ポスト数] 11本 PC・O-MAP

関西本線「関」駅下車。駅前にスタート地点で案内板のマスターは明瞭。マップはすぐ横の「鈴鹿亭寿司店」で扱っている。⑧⑨だけ山に入るが、この⑧への遊歩道はなかなか堪える。その他は比較的平坦。ルート上の問題点は1箇所。⑤へ通じる小道は入口からして不明瞭。水田沿いの小屋の先までは草の繁茂が激しく、新緑が芽吹いていないこの時期でさえも非常に難渋した。⑦は「正法寺山荘跡」入口の道路の曲がりがある筈なのが見当たらず。つい最近道路整備をしたようなので、その際撤去されたのかもしれない。⑩は「関ロッジ」。①⑥⑨はFRPのポストに更新されていたが、他はこのコースの公認No.にしては非常に古いタイプのポストが使われていた。どこかのコースのものを移設したのだろうか。⑦の再設置と⑤へのルートの整備が課題。
(三重県OL協会 ☎0592-24-2404)

□1994年4月4日(月)
三重県 No.6 ~大高 94-11 ~
「本公原」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

紀勢本線「徳和」駅下車。駅前に案内板があり、マスターは明瞭。マップは踏切を渡ってすぐの喫茶「伊多利屋」で扱っている。マップは昭和61年に再調査されたもの。長閑な田園地帯を巡る至って平坦な易しいコース。②以外のポストはFRPのものに更新されている。②は小さな池の淵にあるのだが、棒のみ立って三角頭はその池のなかに投げ込まれていた。この日は幸い干上がっていたので確認することができた。⑤～⑥は一部新道ができていくら迷うほどのものではない。⑧の前は夏場に一度は草刈りをしないと辛いルートになる。⑩は「八柱神社」。1時間50分で終了した。散策気分でも気軽に歩ける好コース。
(三重県OL協会 ☎0592-24-2404)

☎0592-24-2404
〒344 春日部市武里団地5-23-503
大高 竜亮



□1994年5月28日(土)
香川県 No.5 ~富田 94-4 ~
「糸菱(幸) (りょう)」

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

JR「高松」駅前の琴電「高松築港」駅から「琴電琴平」行き電車で「陶(杖)」駅下車。南へ3分歩くと「綾南中学校」があり、その前の「岡田文具店」(☎0878-76-0354)が地図取扱所となっているが閉店した模様。マスターマップも見当たらない。宮内祐氏から以前入手した

マップでスタートした。①不明。②から③へは宮内氏の勧告に従って主要道路を回り道する。マップは昭和54年調査なので新道や新築建造物にぶつかる。④はマップにはない道があった。⑧へも立派な道があり、「西遠田公民館」横にあった。ポストはすべて古く、忘れられたコースという感じがした。なお、昭文社マップル情報「香川」(1993年12月発行)105頁にPCの紹介があり、コースのスタートの電話番号が0878-76-1111となっており、これは「綾南町役場」で、「陶」駅の次「滝宮」駅近くにある。(香川県教委保健体育課

☎0878-31-1111)

□1994年5月29日(日)

香川県 No. 1 ~富田 94-5 ~

「五色台」

[距離] 8.3km

[ポスト数] 10本 PC-0-MAP

JR「高松」駅前の1番乗場から「玉越」方面行きバス(頻発)で「根香寺入口」(仮)下車。近くの「五色台タクシー」で「五色台少年自然の家」本館まで10分、1,210円。これが最も効率だ。その事務室にマップとマスターがある。マップは1986年調査の新しいもの。PCの外に5.3kmと3.5kmのコースもある。「五色台野外活動センター」は少し離れている。帰りの都合で逆回りした。アップダウンがややきついが難しいポストはなく、①の近くに「根香寺」があり、四国霊所第82番札所でお遍路さんに会った。25,000の1地図を持参してみかん畑の間の道を「下笠居」へ35分歩いて下った。

(香川県五色台少年自然の家

☎0878-81-4428)

□1994年5月30日(月)

香川県 No. 7 ~富田 94-6 ~

「高木公公洲川(おんぶ)」

[距離] 8km

[ポスト数] 10本 PC-0-MAP

JR「高松」駅前の琴電「高松築港」駅から琴電に乗り「瓦町」駅で「長尾」行きに乗り換えて「高田」駅下車。近くの

「高田タクシー」で「公洲森林公園」まで10分1,140円。園内の「憩の家」(火曜休み)にマップはあったがマスターはない。仕方なく日下部智氏から以前いただいたマップで逆回りしてスタートした。⑩から⑧は園内で問題はない。⑦へ向かう道は途中で伐採木にふさがれてしまう。マップにない道をたどって小池を頼りにやっと発見した。⑤は溜池の南端と思ひ、笹をかきわけかきわけ進んだが見つからなかった。④は東「二子山」の頂上にある。頂上まで遊歩道があり直登しないので時間ばかり掛かる。③は「城池」に突き出た半島にあるが、これもやぶ漕ぎして見つけた。②付近はアスレチック施設ができていて、①へ下る道が分らず、遠回りして溜池の西側に達したがポストを発見できなかった。最初マップを見た時は楽なコースだと思ったがへとへとになった。なお、交通機関として「東植田」行きバスの件がマップに記載してあるが、夕方3本くらいしかない。帰りも「憩の家」からタクシーを呼ぶしかない。

(香川県教委保健体育課

☎0878-31-1111)

□1994年5月31日(火)

香川県 No. 8 ~富田 94-7 ~

「高木公山峯山」

[距離] 7km

[ポスト数] 10本 PC-0-MAP

マップとマスターは「高松市役所」10階の「市教育委員会市民スポーツ課」(土・日休み)で入手できるが、印刷物は品切れのためコピーしてもらった。スタートの「亀岡公園」にマスターがあり判読可能。市役所からここまではタクシーが便利だ。稲荷神社を抜けると「峰山ハイキング・コース」にかかる。ポストは完備しているが、すべて林の中の暗い所にあり、かつ、アルファベット文字が小さいから見つけにくい。⑦へ下っていくと広場にぶつかる。ポストは少し戻った左手にある。左へ下り、国民宿舎の手前の小径を急降すると⑨がある。

(市教委 ☎0878-39-2626)

リポーター:〒225 横浜市 磯野1-12-13-303

富田 徹

□1994年8月4日(木)

広島県 No. 10,11 ~吉田 94-5 ~

「県民の森A・B」

[距離] 各10km

[ポスト数] 各10本 PC-0-MAP

交通は不便で、まず「備後西城」まで行く。広島からJR芸備線に乗り、急行で2時間、鈍行で3時間、バスは広島バスセンターから2時間半かかる。さらに「備後西城」駅からのバス40分で県民の森に着く。バスの時間は庄原バスセンターに問い合わせるとよい(☎08247-2-2122)。終点の「県民の森管理センター」の標高は808mで、真夏でも爽快で歩く。Aコースは尾根伝いに1149mの毛無山を回るが、1000mの展望園地に登るBコースを歩いた。①から②への道ははっきりしていたが、道の左手奥にある筈の②に入る所が不明で諦めた。したがって、地図によると道は無いが直線距離で②から北西に100mの③も放棄し、毛無山への登山道を北上し、途中で西に折れて、④へ向かった。若人の家を通り、キャンプファイヤーのできる広場西の小川を渡り⑤を経て、スキーリフトのある⑥に出た。⑦へは、まず川の西側の道を取ったが駄目で、キャンプ場を経て川の東側の道を行ったら、途中で雑草道となり諦めた。展望園地の⑧へははやきつい登りが続き、また最後は地図とは違う道となったが、⑩は気持ちよい芝生と木陰が広がり、毛無山の後縁や下界の管理センターの眺めが素晴らしい。同じ道に戻って⑨を発見した。管理センターで「⑩は工事中で立入禁止」と言われたが、そのとおりであった。このコースの距離は10kmはないように思う。シーズンなので数ヶ所あるキャンプ場はどこも賑わっていた。マップの縮尺は1:20000、1枚100円である。

(県民の森管理センター

☎08248-4-2011)

(広島県OL協会 ☎082-227-7654)

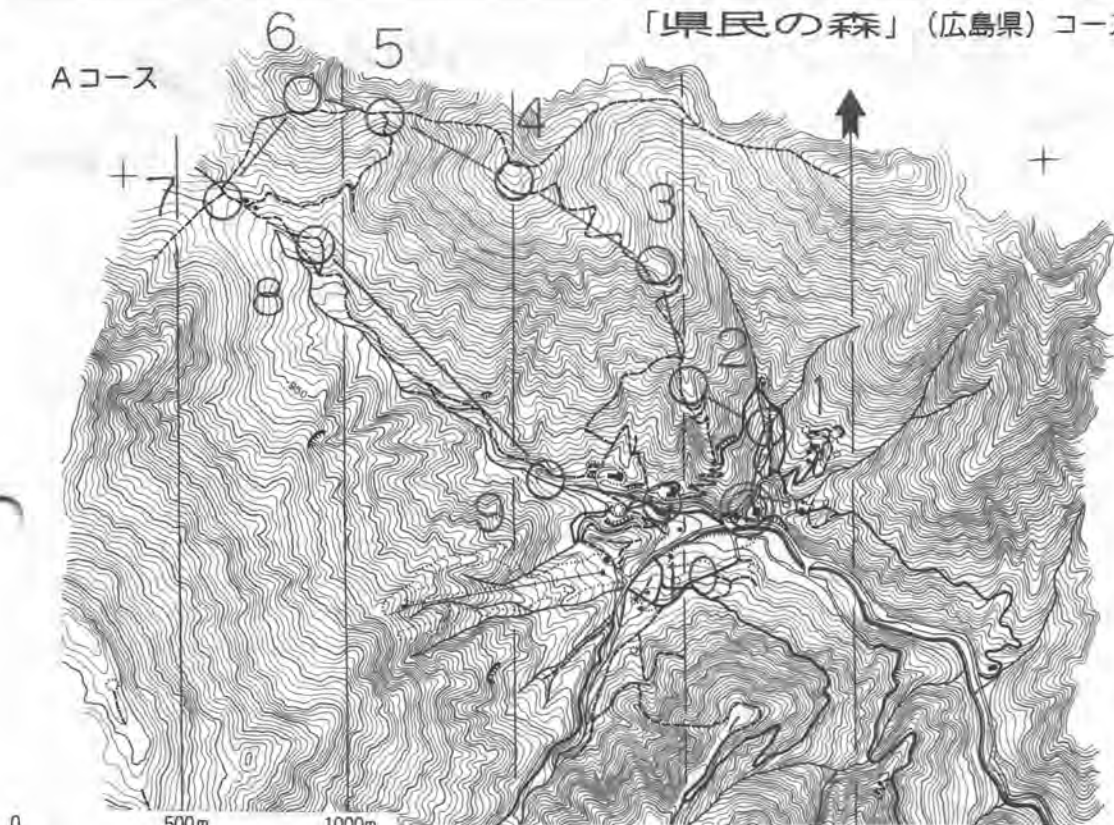
リポーター:〒272 市川市北方町 4-1844

吉田 勉



「県民の森」(広島県)コース図

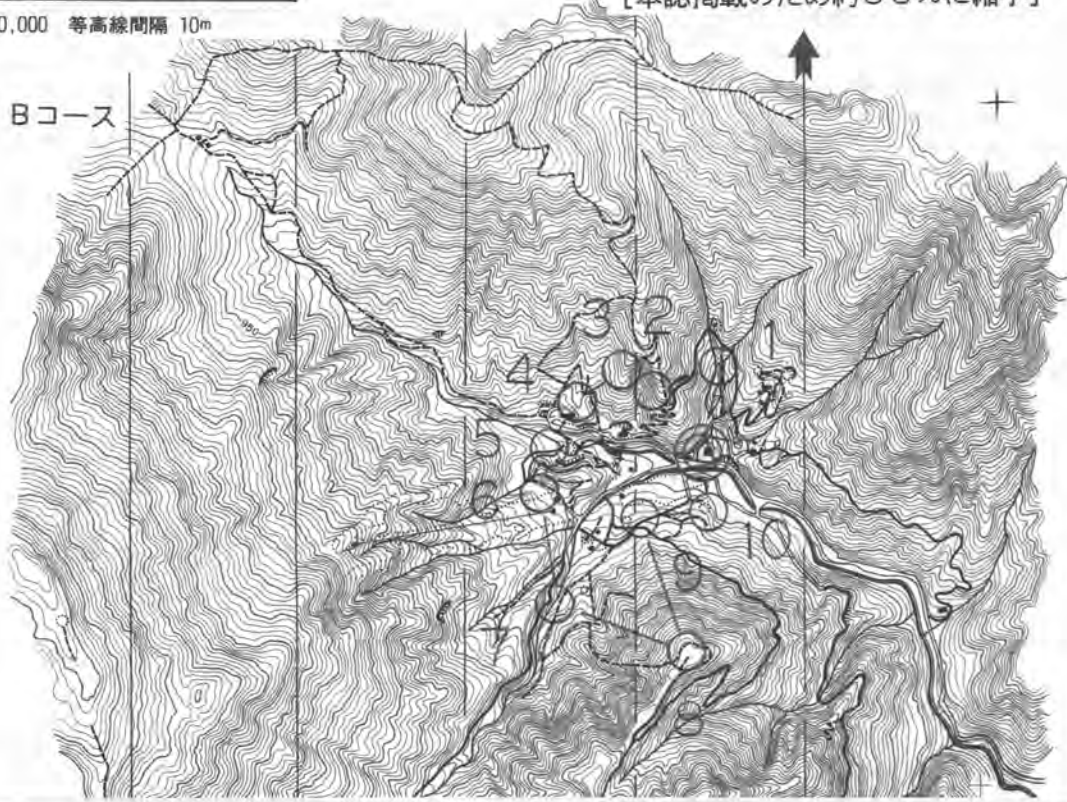
Aコース



[本誌掲載のため約88%に縮小]

1:20,000 等高線間隔 10m

Bコース



オリエンティアのための本棚



第12回 (社)日本の水をきれいにする会(編)『名水百選』ぎょうせい

文:村越 真/カット:早川喜代美

筑波で一人暮らしをするようになって何が嬉しいって、テレビを一切みなくていいことだ。テレビも視ない、新聞も家にかえて3週間くらいまとめてみる。家にいるときはラジオの音楽番組をBGMにしているだけだから、世の中の動きからも当然疎くなる。村山さんが首相になったことも7月9日まで知らなかった。でもぜんぜん困らないじゃない、そんなこと知らなくても。政治の動きなんて、日常生活になんの影響もないもん。

だけど国会の空転には参った。予算が決まらないのが困る。文部省の予算で筑波大学に出張している身、予算が決まらなければ出張旅費は全部立替である。5月に暫定で出してくれた8万も、ボーナスを家族で山分けした15万も、東大OLKの大会での本の売り上げもあつという間に使いきった。どうして一人暮らしってこんなに金がかかるんだろう。7月初旬には貯金もほとんど使い果たして貧乏暮らしをしていた。

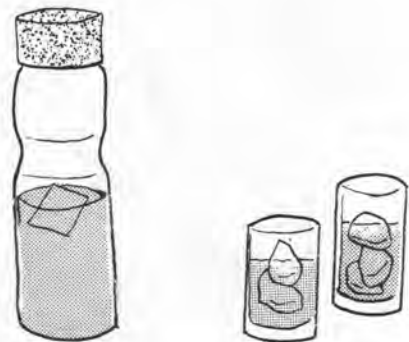
おりしも昨年とはうって変わった暑い夏だ。練習すれば汗をかく、喉の渴いた後のビールなくして夏の練習がどうして乗り切れるだろう。だが、日々のビールを買うための220円にも躊躇する有様だった。で、結局水を飲んでた。「やっぱり水は生命の根源、喉の渴きを潤すには水が一番だよなあ」。負け惜しみではない。水の美味しさを実感させてくれたのは、この夏の暑さ、スイス選手権という目標、そして国会の空転だった。真水もいいが、水出しの緑茶も最高。普通の緑茶をやや多めにバックにいれて、水とともに冷蔵庫へ入れておくと3-4時間くらいで色も鮮やかな水出し緑茶ができる。飲むとしゃきっとする。湯で出す時のような余計な成分がでないし、ビタミンの成分も残っている。最近ではマラソンのスペシャルドリンクにも登場するとか。それから水で希釈した100%のリンゴジュースだ。走る前後は40%程度に希釈、食事の時なら60%程度が適当、ベースは混濁タイプではなくクリアでなければならない。水で薄めただけなのに、新たな創造物と言えるほど調和の取れた味になる。おまけに安上がり、と筑波では言えないところが、貧乏な私にとってはつらい。来年はお試しを。

これらの飲物もおいしい水があればこそ。残念ながら筑波の水の水準はいま二つくらいなので、水はミネラル・ウォーターだ。一番ヨーロッパっぽい味がするエビアンに対し、日本の水と味が似ているボルビック、また1993年4月に発売が開始されたヴェル・ヴェールもともに日本の水と成分の近い軟水だ。やっぱ、

水が一番。この本でも読んで、水をくみにいってこよかな。水代だってばかにならないしね。霞ヶ浦の水を使っている筑波の水道はとっても飲む気にはなれない。

テラインのそばにも百選の名水がいくつかある。八ヶ岳南麓高原湧水群もその一つである。泉郷の地図の西の中央には女取湧水が、そして中央の下には三分一湧水があるのが地図でも見てとることができる。三分一湧水は公園になっていて、高原でのオリエンテーリングの疲れを休めるにはうってつけである。8月の合宿の時いったが、脚を冷やそうにも10秒とつかっていることができなかつた。ちなみに地図女取の南辺に位置する湧水は大流湧水、甲斐小泉駅から泉ラインにそって1キロほど東にいった道路脇にあるのが八右衛門出口だ。

並んで掲載されている忍野八海、白州・尾白川、いずれもテラインの中あるいはそばの名水だ。なにしろ環境庁が選定した由緒ある水揃いだ。オリエンテーリングのついでに訪れてみる価値はあるだろう。本書も環境庁長官が「はじめに」を書いているし、あとがきには環境庁水質保全局水質規制課長がかいているという由緒正しき出版物である。



第15回長野県オリエンテーリング2日間大会 2日目 コントロール位置説明 1994年8月7日(日)

① HE	7200	270
S		↗ ↘
1 32	↳	
2 34	↳	
3 36	∩	
4 37	→ ∨	2×2
5 38	ㄣ	
6 50	∪	1×1
7 52	∪	2×1 ○
8 56	≡	2.0 ㄥ ㄒ
9 55	↗	T
10 53	∩	
11 48	∪	4×2 ○
12 46	∪	3×2 ○
13 43	∪	3×2 ○
14 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

② H21A1	5700	220
S		↗ ↘
1 32	↳	
2 34	↳	
3 36	∩	
4 38	ㄣ	
5 46	∪	3×2 ○
6 51	↗	┌
7 53	∩	
8 48	∪	4×2 ○
9 45	∪	3×2 ○
10 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

③ H21A2	5900	210
S		↗ ↘
1 33	↳	
2 36	∩	
3 37	→ ∨	2×2
4 38	ㄣ	
5 50	∪	1×1
6 51	↗	┌
7 54	∩	
8 47	↖ ∪	3×2 ○
9 45	∪	3×2 ○
10 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

競技日 1994年8月7日(日)
 使用地図 信州伊那高原 ますみヶ丘
 主催 長野県オリエンテーリング協会

④ DE・D21A H45A	4400	140
S		↗ ↘
1 43	∪	3×2 ○
2 50	∪	1×1
3 52	∪	2×1 ○
4 56	≡	2.0 ㄥ ㄒ
5 55	↗	T
6 53	∩	
7 48	∪	4×2 ○
8 46	∪	3×2 ○
9 41	∪	3×2 ○
10 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

⑤ D45A HB	3000	90
S		↗ ↘
1 43	∪	3×2 ○
2 52	∪	2×1 ○
3 53	∩	
4 54	∩	
5 47	↖ ∪	3×2 ○
6 41	∪	3×2 ○
7 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

⑥ DB	2700	80
S		↗ ↘
1 42	↗ ↘	
2 44	↗ ↘	
3 49	↗	<
4 48	∪	4×2 ○
5 41	∪	3×2 ○
6 88	↗ ↘	
○ >----- 50 -----> ⊙		

⑦ HC・DC・グループ (3200m)	
1 (31)	小道のふんき
2 (35)	道のふんき
3 (39)	道の曲がり
4 (40)	おんぼろバス
5 (88)	道のふんき

コースプランナー 木村佳司

情報あれこれ(海外篇)

■ I O F 総会ニュース(I O F HEADLINES 2/1994より抄訳) = 4 ページより続き =



[新たに2か国が加盟]

第17回 I O F 総会において2つの新連盟の加盟が承認された。カザフスタン共和国のスポーツ・オリエンテーリング連盟が正式加盟、マケドニア登山協会が準加盟として認められた。これで I O F の仲間はずれは45を数え、うち41が正式、4か国(ブラジル、キューバ、マケドニアそしてマレーシア)が準加盟となっている。

評議会は目標を75か国として、その可能性の調査を普及委員会に委託した。その最も明確な目的は、オリンピック夏季大会の種目の一つとして、オリエンテーリングに I O C (国際オリンピック委員会) が要求する加盟国数の水準に到達させるためである。

[1999年世界選手権はイギリスへ]

評議会は1999年世界選手権開催についてのイギリスからの出願に、満場一致で同意した。

※訳者註: 世界選手権は明年95年はドイツ、97年ノルウェー、2001年はオーストラリアに決定している。

[1998年スキーO世界選手権はオーストリアへ]

大会は900~1400mの高度にある以前のアルペン・テレーンで開かれる予定。

※訳者註: スキーO選手権は、本年2月がイタリアで(成功裡に終了)、96年にはあのノルウェーのリレハンメルで開催。

[ジュニア世界選手権はスロヴァキアとフランスへ]

評議会はまた、1996年のジュニア・スキーO世界選手権のホスト国をスロヴァキア共和国に、1998年のフットのジュニア世界選手権開催をフランスに決定した

[イスラエルが20-9でスウェーデンを破る]

イスラエルが20-9でスウェーデンに勝った。しかしこれは、サッカーのワールドカップでもなければ、他のスポーツのことでもない。この対戦は1996年の第18回 I O F 総会の開催国のことである。

ヴァルナにおける総会はイスラエル・スポーツ・オリエンテーリング協会に対し、次回の総会の準備にとりかかるよう明確な委託を与えた。場所はエルサレムへのルート上にある国際空港から遠くないテルアビブの東側のようなものである。期日は未定。

[I O F のドーピング規則改定について]

評議会において、最近の I O F のドーピング規則を例えば I O C 規則に一致させるなど、その改定についてのノルウェーからの提案が採択された。評議会は、この仕事を遂行するためのプロジェクト・チームの長として、医師の(そしてノルウェー・オリエンテーリング連盟の会長である)イェルゲン・ホルムボー氏を指名した。

訳: 田口 肇

PC情報

■千葉県パーマナントコース情報



O-JAPAN '90/6 全国PC一覧(作成者 富田 徹氏)のうち、千葉県内その後の情報です。



- 1.廃止
 - No. 20 鹿野山...後半のコースが施設に吸収。
 - No. 58 館山城山公園
- 2.コース変更
 - No.135 山武壺谷...開発により途中のコースが変更。
 - No. 94 山武杉(予定)
- 3.追加 県営公認コースではないが、レポートにない下記のものがあります。
 - (1)成田エアポート 大栄町前林・運動の森自然公園 ☎ 0478-73-5121
京成「東成田」駅からバス。8ポスト 8km
 - (2)さざんか 船橋市教育委員会 ☎ 0434-36-2111
新京成「三咲」駅からバスで「豊富小前」下車。10ポスト 8km
 - (3)東金青年の家 同上 ☎ 0475-54-1301
JR「東金」駅からバスで「砂押県道入口」下車。19ポスト フリーポイント



文責: 京葉OLC 高橋 義広

編集部より

ようやく暑さも和らぎ、オリエンテーリングの秋が開幕しました。本誌オリエンテーリング・カレンダーも、こここのところ紙面

いっぱいイベント情報。ただ、公認大会が少ない、というより本年度は朝日大会以外無しというところが気になります。来年の全日

本大会は、E・Aクラスなど都道府県の推薦出場が多くなるのでしょうか。みなさまからのご意見お待ちいたします。=編集部

O-JAPAN	発行人/田口 昭子	: 購読料	: 編集責任者/田口 肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5		: '94.4月~'95.3月 ¥3,600	: Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL.045-891-7004 FAX.045-891-2500		: (高校生以下) ¥2,400	: Editorial Address:
分室=Annex TEL.0287-77-1977		: 1部あたり頒布価格 ¥300	: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座/(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN 編集部			: Yokohama, 233 Japan